

キャリア・スライドがソーシャルワーク・アイデンティティに及ぼす影響

龍谷大学短期大学部 伊藤 優子(6527)

山下 匡将(名古屋学院大学・6673)、杉山 克己(青森県立保健大学・2160)

志水 幸(北海道医療大学・1727)、武田 加代子(天理大学・1502)

キーワード：専門職性・ソーシャルワーカー・高齢者施設

1．目的

本研究では、ソーシャルワーク専門職性の向上に資するべく、ソーシャルワーカー(以下、SWer)のアイデンティティ形成に影響を及ぼす要因について検討する。

2．研究の視点および方法

介護老人保健施設(以下、老健)および特別養護老人ホーム(以下、特養)に勤務するSWerの専門職性自己評価における傾向の差異に焦点を当て、全国の高齢者施設を対象とした調査から得た784名分の回答を分析した。

専門職性の評価にあたって、ソーシャルワーク(以下、SW)専門職性の評価には「SWPI-11」を、レジデンシャル・ソーシャルワーク(以下、RSW)専門職性の評価には「SWPI-R」を使用した。なお、統計解析では、独立したサンプルのt検定および判別分析(ステップワイズ法)を採用し、その有意水準をすべて5%に設定した。

3．倫理的配慮

本研究では、1)調査の目的を理解し、かつ調査協力に承諾が得られた対象者からのみ回答を得ている、2)回答から個人が特定できないように、得られたデータを統計的に処理している等、調査協力者が不利益を被ることの無いよう倫理的な配慮をおこなった。

4．結果

(1)SWPI-11によるSW専門職性の比較(独立したサンプルのt検定)

SWPI-11では、老健SWerの得点が有意に高い傾向が看取された〔mean±SD:老健SWer(37.4±6.2点)/特養SWer(26.9±6.6点)〕。また、項目ごとに有意差の検定をおこなったところ、11項目すべてにおいて老健SWerの得点が高かった。

(2)SWPI-RによるRSW専門職性の比較(独立したサンプルのt検定)

SWPI-Rでは、特養SWerの得点が有意に高い傾向が看取された〔老健SWer(17.9±5.0)/特養SWer(18.0±4.5)〕。また、項目ごとに有意差の検定をおこなったところ、「援助計画を策定する際には、利用者の意向を常に優先している」「より良い援助のために、多大な努力を要しても新しい方法を試みている」の2項目において、特養SWerの得点が高かった。

(3) 判別分析による老健 SWer と特養 SWer の分類-両 SWer を特徴づける項目の抽出-**SWPI-11 を用いたモデリング**

老健 SWer および特養 SWer の判別に有用な項目として、「ソーシャルワーカーには何故倫理が問われるのか、その理由を理解している(正準判別関数係数=.301:以下、同様)」「ソーシャルワーク援助の進め方を、自分自身の判断で決定することができる(.341)」「援助の対象となる領域に関する幅広い知識を身につけている(.340)」「専門職団体に所属する意味を理解している(.244)」「実践をもとにして、論文を書くこともある(.240)」の5項目が抽出された(固有値=.765, 正準相関=.658, 重心:老健 SWer=.865/特養 SWer=-.881)。

SWPI-R を用いたモデリング

老健 SWer および特養 SWer の判別に有用な項目として、「専門職団体に所属する意義を意識して、当該活動に参加している(-.401)」「援助計画を策定する際には、利用者の意向を常に優先している(.717)」「より良い援助のために、多大な努力を要しても新しい方法を試みている(.509)」「ソーシャルワークの価値を意識して、仕事に臨んでいる(-.483)」の4項目が抽出された(固有値=.058, 正準相関=.235, 重心:老健 SWer=-.238/特養 SWer=.244)。

(4) 基本属性にみる老健 SWer と特養 SWer の特徴**経験月数(独立したサンプルの t 検定)**

社会福祉分野の経験(月数)では、特養 SWer の経験が有意に長かった〔mean±SD:老健 SWer(132.0±75.9 カ月)/特養 SWer(143.2±89.3 カ月)〕。一方、相談援助職の経験(月数)では、老健 SWer の経験が有意に長かった〔mean±SD:老健 SWer(95.6±66.3 カ月)/特養 SWer(85.7±66.9 カ月)〕。

取得資格(χ²検定)

「社会福祉士」では、老健 SWer の取得率が有意に高かった〔有資格者:老健 SWer(64.7%)/特養 SWer(53.7%)〕。「介護福祉士」では、特養 SWer の取得率が有意に高かった〔有資格者:老健 SWer(29.8%)/特養 SWer(53.5%)〕。なお、「介護支援専門員」では、有意な差はみられなかった〔有資格者:老健 SWer(61.5%)/特養 SWer(62.5%)〕。

5. 結論

以上の結果から、社会福祉士を基礎資格とする老健 SWer は、特養 SWer に比べ、就職した当初から相談援助職としての役割を遂行し SW 専門職性を発揮できる環境にある。しかし、いわゆる「中間施設」としての老健の性格上、利用者の意向を反映させる機会や新たな援助方法を試行する機会が少ないことが示唆された。

一方、介護福祉士を基礎資格とする特養 SWer は、老健 SWer に比べ、入所期間が長期化する特養の性格上、新たな援助方法を試行する機会や利用者の意向を反映させる機会が多いことが示唆される。しかし、介護職としてのキャリアを積んだ後に相談援助職としての役割を遂行ようになることから、SW 固有の価値や知識の不足が生じ SW 専門職性を発揮できていない状況にあることが示唆された。